

日本脳炎予防接種のお知らせ

3歳、4歳～7歳6ヶ月未満、9歳

のお子様を対象に、日本脳炎予防接種のお知らせを送付しています！

お知らせが届きましたら、親子健康手帳

(母子健康手帳)を忘れず持参し、早めに病院で予防接種を受けましょう！



○対象年齢：（1期）：生後6ヶ月から生後90月に至るまでの間の者
（6ヶ月児から7歳6ヶ月児未満）

※標準的な接種年齢：初回(1・2回目) ⇒ 3歳児
追加(3回目) ⇒ 4歳児

（2期）：9歳以上13歳未満の者

○接種回数：4回

○接種費用：全額公費負担(無料)

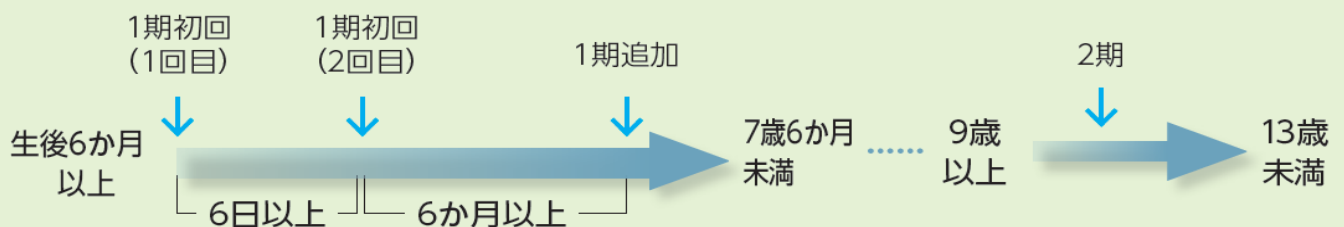
○接種場所：別紙の市内指定医療機関 または
本島内の地区医師会会員医療機関

(※接種前に予約を行い、必ず親子(母子)健康手帳を持参して下さい)



■日本脳炎予防接種 接種スケジュール

【標準：1期初回は3歳以上4歳未満、1期追加は4歳以上5歳未満、2期は9歳以上10歳未満】



【標準：6～28日】 【標準：おおむね1年】

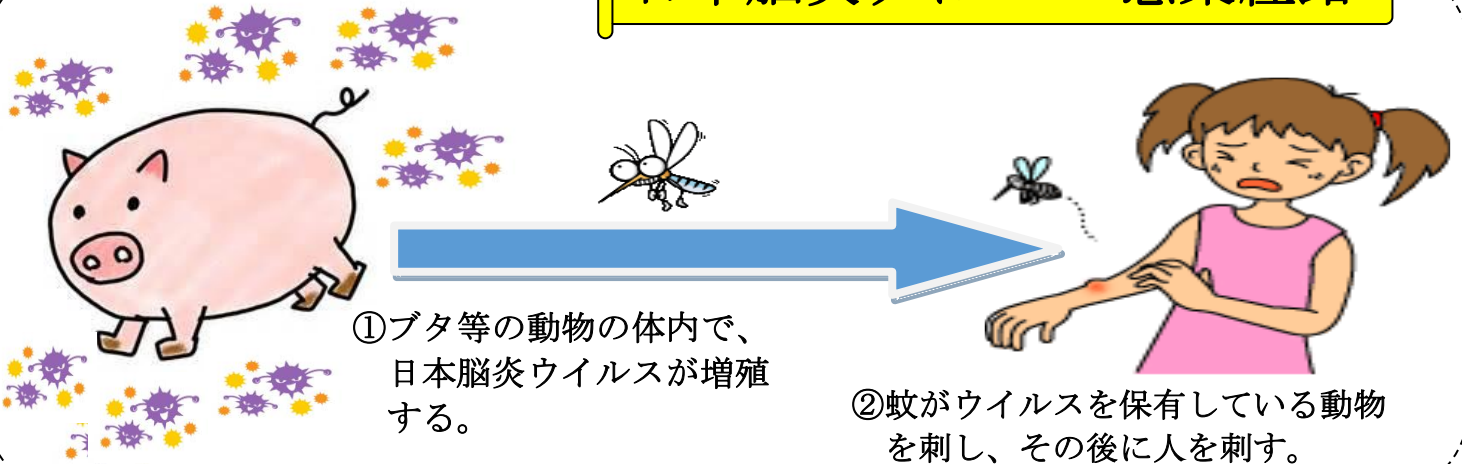
いずれも1回に0.5mL(3歳未満は1回に0.25mL)を皮下接種

※市からお知らせが届く3歳になる前から接種を希望される方は、浦添市保健相談センター（TEL：098-875-2100）までお問い合わせください。

日本脳炎ってどんな病気？

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスによって起こる急性の中枢神経(脳や脊髄等)の病気です。
動物(主にブタ)の体内でウイルスが増殖された後、そのブタを刺したコガタアカイエカ(水田等に発生する蚊の一種)等の蚊がヒトを刺すことによって感染します。
ヒトからヒトへ感染することはありません。

日本脳炎ウイルスの感染経路



ウイルスを持つ蚊に刺されて感染しても、症状が出ることなく経過する(不顕性感染)場合がほとんど(過去に、100人~1,000人の感染者の中で1人が発病すると報告されている)ですが、発病した場合は6~16日間の潜伏期間後に、高熱、頭痛、嘔吐等の症状が現れ、その後、脳炎による意識障害(意識が無くなる)やけいれん等の中枢神経系障害が生じます。現在でも致死率は20~40%程度といわれており、病気が治った場合も45~70%の人に神経や精神障害等の重い後遺症が残るといわれています。

現在は日本国内での日本脳炎患者数は、年間10人以下程度とかなり減少しています。

しかし、日本脳炎ウイルスは日本を含む東アジア及び東南アジアに広く分布しており、ウイルスを媒介する蚊の活動範囲も年々広がっているため、予防する必要がある病気です。

日本脳炎ワクチンの副反応について



新型日本脳炎ワクチン(乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン)の主な副反応は、局所の副反応として、接種箇所の紅斑(赤み)、内出血、疼痛(痛み)、腫脹(腫れ)、そう痒感(かゆみ)等で、全身の反応として、発熱、じんましん、発疹(ブツブツが出る)等があります。

その他では、頭痛、咳嗽、鼻漏、咽頭発赤、咽頭痛、嘔吐、下痢、食欲不振、腹痛等が報告されています。多くの場合、数日で自然に治りますが、接種後に気になる症状のある時は、早めにかかりつけの医師の診察を受けましょう。

なお、従来の日本脳炎ワクチンはマウス脳を原材料として使用していたことから急性散在性脳髄炎(ADEM)などの脱髄性疾患の発生が理論的に危惧されていましたが、現在使用されている新型日本脳炎ワクチンは日本脳炎ウイルスをVerocell(アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞)で増殖させ、得られたウイルスをホルマリンで不活化(感染性をなくすこと)したものであるため、マウス脳の混入による脱髄性疾患発症の可能性は排除されています。